

- タイ深水イネ及び他の地帯における野生イネの分布について、雑草研究 28 (別) 181~182.
35. 百武 博・夏 菱・石塚皓造(1993): シメトリンとジメタメトリンに対する野生稲, 雑草型野生稲および栽培稲の感受性差異, 雑草研究 38 (別1), 202~203.
 36. ITOH, K., M. Z. ABDULLAH and M. AZMI (1990): Habitats of four species of wild rice in Malaysia. 3rd Tropical Weed Sci. Conf. Kuala Lumpur, Malaysia, Dec. 1990. pp. 32.
 37. 伊藤一幸・アズミマン(1993): マレーシアの潤田直播における *Ischaemum rugosum* の生態と防除, 雑草研究 38 (別1), 22~23.
 38. 金田忠吉(1987): 世界の稲品種, 世界のコムと稲作, 農業及び園芸 62 (臨時増刊) 17~22.
 39. KUAH, T. C. and M. SALLEHUDDIN (1988): HOE 360 (Fenoxaprop-ethyl) for control of grassy weeds in direct seeded rice. Proc. Nat. Semi. & Work. on Rice Field Weed Management, 185~202, Penang Malaysia.
 40. MOODY, K. (1991): Postplanting weed control in direct-seeded rice. MARDI Rice Symposium, Penang, Malaysia. pp. 34.
 41. 森島啓子(1992): 野生イネ集団に働く自然および人為の選択, 遺伝 46 (1), 31~35.
 42. OKA, H. I. (1988): Origin of cultivated rice. Japan Scientific Societies Press, Tokyo pp. 254.
 43. OOI G. H. C. (1988): *Ischaemum rugosum*—The menace weed in Sungai Manik area. Proc. Nat. Semi. & Work. on Rice Field Weed Management, 315~318, Penang Malaysia.
 44. VAUGHAN, D. A. (1989): The genus *Oryza*; Current status of taxonomy. IRRI Res. Paper Ser. No. 138, pp. 21.

(次号につづく)

ハ ト の 食 べ 物

9年ほど前, ある雑誌のコラム用にハトの離乳食について書き, 「野生ヒエやカラスノエンドウなどの雑草の種子も離乳食の大切な材料になっているものと想像している」と結んだ。その後で, 想像だけで物を言うのはいかがなものかと, 路傍からカラスノエンドウの種子を少し集めてきて, 借家のベランダでふ化して巣立つ間際のハトのひなに与えてみた。想像したとおりすぐ食べ尽くした。この雑草を選んだのはマメ科であるからではなく, 種子が大きいからであった。

よく「大豆の子葉をハトに食われた」という話を聞く。そこで, 大豆畑でのハトの被害について, ハトの習性に触れながら事情を述べる。ハトの好物の一つにトウモロコシがあり, その芽生えを引き抜くと胚乳の残っている実が出て

くる。しかし, これは水気が多くて余りうまくない。3cmも覆土をされると, 芽だけが抜けてくるので, やがてあきらめる。さて, 大豆の芽生えを引き抜いても何も出てこない。ハトには乾いた実を食べ水は水で飲むという習性があり, 芽生えの子葉は水気が多過ぎる。麦の後作の大豆畑ではハトは麦のこぼれ種を拾う。大豆が出芽してからでは羽で子葉を落としたりして被害を生じる。麦のこぼれ種がないと, 前記のように大豆の芽生えを引き抜くことがあるが, 子葉を食べるようなことは普通はしない。いずれにしても, 「豆が欲しいかそらやるぞ」と歌われるほど大面積には大豆は作付けされていない。ハトの主食は日本では米と麦類である。

(財)日本植物調節剤研究協会 技術顧問 片岡孝義)